図書館がキャンパス！

# 令和７年度 放送大学 ライブラリー講演会

| 期　日 | テ　ー　マ | 講　師 | 内　容 |
|---|---|---|---|
| 令和７年<br>5月17日<br>（土） | **茨城が誇る世界最強加速器<br>J-PARCでさぐる<br>宇宙と物質の起源** | J-PARCセンター／センター長<br>小林（コバヤシ）　隆（タカシ） | J-PARCでは、陽子ビームをほぼ光の速さまで加速させて物質にぶつけ、大量のニュートリノなどの粒子をつくっています。これらの大量の粒子を利用して、物質の未知の性質を解明するための研究を進めています。「宇宙になぜ物質が存在するのか」といった自然界の根源的な謎に迫る、J-PARCの研究を紹介したいと思います。 |
| 6月21日<br>（土） | **利根川水運と東廻海運** | 秋田大学名誉教授<br>渡辺（ワタナベ）　英夫（ヒデオ） | 百万都市江戸の米需要を賄うため、幕府は関東全域に河川水運の運河網を整備します。重くて嵩張る米俵を遠方に運ぶには水運が最も有効でした。しかし、関東農村だけではその需要を満たせず、仙台米に代表される奥州米の供給が欠かせませんでした。利根川・霞ヶ浦の水運が海運と連携してこれに応えましたが、その結節点として重要な役割を果たしたのが常陸国だったのです。 |
| 8月23日<br>（土） | **江戸時代の女性たち** | 茨城大学教育学部教授<br>放送大学茨城学習センター客員教授<br>千葉（チバ）　真由美（マユミ） | 江戸時代の村や町の女性たちはどのような人生を歩んでいたのでしょうか？政治史上では史料に登場することが少ない女性たちですが、家の代表者として、社会の一員として、また教育者としてのすがたを見せることがあります。女性たちのすがたを通して、当時の社会のあり方や現代社会の課題についても考えていきましょう。 |
| 9月20日<br>（土） | **岡倉天心研究の現在**<br>**ー天心が目ざしたヴィジョンを探るー** | 茨城大学名誉教授<br>茨城県天心記念五浦美術館 館長<br>小泉（コイズミ）　晋弥（シンヤ） | 岡倉天心（本名：覚三、1863～1913）は、東京美術学校、日本美術院を創設し、近代日本画の確立をリードしました。同時に古美術の保存にも力を尽くしています。ボストン美術館に勤務すると、その近代化に寄与し、『茶の本』を著して、世界に日本文化の奥深さを紹介しました。50年という短い生涯の中で、彼が目ざしたものは何だったのかを再確認したいと思います。 |
| 10月18日<br>（土） | **多文化共生のための<br>コミュニケーション** | 放送大学教授<br>（人間と文化コース）<br>大橋（オオハシ）　理枝（リエ） | 多文化共生は「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」です。私達が普段どのようなコミュニケーションの仕方を無意識のうちに「あたりまえ」としているかを考え、様々な「ちがい」をもった人々と「共に生き」るためのコミュニケーションを模索したいと思います。 |
| 11月15日<br>（土） | **室町時代の常陸国**<br>**ー富有人注文の世界ー** | 宮内庁書陵部図書課研究職<br>小森（コモリ）　正明（マサアキ） | 室町時代にはいると関東地方では寺社の修復などの造営が行われるようになります。それは、南北朝の内乱期に行われなくなった造営事業が、社会の安定とともに寺社から要求されるようになったためです。常陸国内でも、一宮鹿島神宮で造営事業が行われることになりますが、その際に常陸国内の富有人（有徳人）とよばれる人々に費用負担をさせようとする動きがみられました。ここでは、その史料を素材とし、この時期の常陸国内の様子を考えていきます。 |
| 12月20日<br>（土） | **ICTの発展は<br>人を進化させるものなのか** | 茨城大学理工学研究科教授<br>放送大学茨城学習センター客員教授<br>羽渕（ハブチ）　裕真（ヒロマサ） | 情報と通信の技術（ICT）は、インターネット・スマホ・IoT・生成AIの登場、コンピュータやワイヤレス通信の高度化など、ものすごい勢いで進んでいます。ICTはもはや私たちの生活に欠かすことはできませんが、それは私たち「人間」自身の何を進化させ、何を退化させるのでしょうか。今回は、通信の歴史を紐解きながら、「ICTの恩恵」と「人の力」の関係について考えてみます。 |
| 令和８年<br>2月21日<br>（土） | **茨城の自然はすごい！**<br>**ー山・川・海が作った県北地域の魅力ー** | 茨城大学名誉教授<br>安藤（アンドウ）　寿男（ヒサオ） | 茨城は、5億年におよぶ地質時代を経て作られた日本列島のなりたちを展望できるまれな地域です。茨城の自然のどこがすごいのかを、特に県北地域を多賀山地・臨海、奥久慈清流、県央平野の3地域に分けて解説します。そして、五浦海岸、平磯海岸、大子ー常陸大宮地域での調査研究や報道取材の様子をエピソードを交えながら紹介します。 |
| 3月14日<br>（土） | **水戸道中膝栗毛**<br>**ー古道歩きの勧めー** | 放送大学茨城学習センター所長<br>特任教授<br>小野寺（オノデラ）　淳（アツシ） | 現在の国道6号線（水戸街道）は、江戸時代の水戸道中とは異なる道です。水戸道中を歩きながら、今も残る一里塚、本陣、問屋、旅籠、道しるべなどを確認してみましょう。新たな発見に出会うかもしれません。講演では、取手から勿来までの道や宿場などを示しながら、水戸道中の特色と古道歩きの楽しみ方を、お話しします。 |

放送大学教授等による講演会を開催します。各分野の最新の話題を聞くことができるまたとない機会です。ぜひ御参加ください。
※都合により日程・会場・内容等が変更になる場合があります。

時間　14：00 ～ 16：00
会場　茨城県立図書館 視聴覚ホール

主催　放送大学茨城学習センター　／　茨城県立図書館

お問い合せ　水戸市文京2－1－1 茨城大学水戸キャンパス内 tel:029-228-0683　／　水戸市三の丸1－5－38 tel:029-221-5569